

第 1 3 7 回 国 会 概 観

—衆議院解散—

第137回国会（臨時会）は9月27日に召集された。

内閣は、同日午前の閣議において、衆議院を同日に解散することを正式に決定した。

召集日の正午過ぎ、衆議院本会議において、土井たか子衆議院議長は議席の指定を行った後、伝達された解散詔書を朗読し、衆議院は解散された。

参議院では、午前中開会された本会議において議席の指定が行われただけで本会議休憩中衆議院が解散されたため、同時に閉会となった。

なお、召集日当日の衆議院解散は、昭和41年の第1次佐藤内閣、昭和61年の第2次中曽根内閣に続いて3回目であった。

【 総 選 挙 】

閉会後の10月20日、第41回衆議院議員総選挙が初の小選挙区比例代表並立制により実施された。

総選挙の結果は、自民党は239議席と議席を伸ばしたものの、過半数に達しなかった。また、新進党は156議席、民主党は52議席、共産党は26議席、社民党は15議席、新党さきがけは2議席、民主改革連合は1議席、無所属9議席となった。

今回の投票率（全国平均）は、小選挙区で59.65%、比例代表で59.62%となり、史上最低であった前回の第40回総選挙の投票率（全国平均）67.26%をさらに下回り、総選挙としては初めて60%を割り込んだ。